

法政就業力通信

～今月のさんぽ道～

法政大学
「就業力を育てる3ステップシステム」
プロジェクト
<http://3step.hosei.ac.jp/>

就業力を育てる3ステップシステム

新しい補助金事業が始まります！

教授 藤村博之（ふじむら ひろゆき） プロジェクトリーダー

産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業

昨年度で打ち切られた就業力育成支援事業に代わって、新しい補助金事業が始まりました。複数の大学がチームを組んで、産業界との連携を取りながら新しい教育の手法を開発することを支援する事業です。本学は、青山学院大学、お茶の水女子大学、大妻女子大学、工学院大学、駒澤大学、芝浦工業大学、昭和女子大学、女子美術大学、専修大学、拓殖大学、東京家政大学、東京電機大学、東京都市大学、東京未来大学、明治学院大学、目白大学、東京家政大学短期大学部とともに、この事業を進めていくことになりました。

産学連携3Dプロジェクト

本学の新しい事業は、「産学連携3Dプロジェクト」といいます。産業界の意見を聞きながら、立体的に教育内容を組み立てていくことを目指すものです。「立体的」とは、従来の教員による学生の教育・指導に、産業界の知見やニーズを反映した教育手法を組み合わせることを意図しています。また、①働く力の測定、②働く力を理解するビデオ教材、③新しい形のインターンシップという3つを組み合わせることで、4年間の教育を「立体的に」展開しようとしています。

① 働く力の測定

働くようになってから必要とされる能力は大学教育の中で養成されるという観点から、本学では就業力育成支援事業において「就業力測定手法の開発」に取り組んできました。昨年度までの取組によって一応の形は出来上がってきましたが、まだ改良すべき点が残されています。特に、産業界の意見を聴きながら、本学独自の測定手法を創り上げていきたいと思えます。

② 働く力を理解するビデオ教材の制作

就業力育成支援事業において、本学では、2本のビデオ教材を作成し、学生の教育に役立ててきました。旅行会社に就職した1年目の女性従業員を主人公にした「ハタラクチカラ」、パン製造会社に機械を納入している会社に入社2年目男性従業員を主人公にした「営業物語」、それぞれ、実際に働くようになったときに必要とされる能力がわかる内容になっており、学生の反応も上々です。

これまでの大学教育は、教員が学生に知識や方法論を伝達するという形式が主流でした。ここに、働く力を実感させるビデオ教材を付加することによって、教育内容が「立体的」になり、学生の学ぶ姿勢に良い効果をもたらすと期待できます。

③ 働く力を育む実践的インターンシップの開発

今回、新しいインターンシップとして、「催事販売」を開発しようとしています。商店街の空き店舗を使って、学生が市場調査から商品の選定、仕入れ、店舗設計と運営、そして最後の収支計算まで責任を持って行うインターンシップです。用意された材料をレシピにしたがって調理するのではなく、材料を集めてくるところから学生に体験させようとするものです。商店街と連携して学生の学習効果が高まるような方式を開発したいと思います。

引き続き、みなさまのご支援をよろしくお願い致します。



略歴

84年名古屋大学大学院卒

京都大学博士(経済学)。

84～89年京都大学経済研究所
助手、90～97年滋賀大学経済
学部助教授・教授。97年～03年法政大学経営学部
教授、04年～IM研究科教授。

e-mail:

fhcdc@hosei.ac.jp

研究室は新一口坂校舎4F



略歴 法政大学大学院経営学研究科キャリアデザイン学専攻(修士)卒業後、法政大学大学院政策創造研究科博士後期課程に進学。2011年3月、同博士課程中退。

キャリアを守ることも視野に

特任教員 白井 章詞 (しらい しょうじ)

某テレビ番組に伊那食品の塚越会長が出演されていました。独自の経営哲学のもと、年功序列や終身雇用でも社員の働く意欲が高まる職場環境を作りだすことで、持続的な発展を可能にしていました。社員との共生をはかることが企業成長の原動力のように思えます。一方、学生が就職する企業の中には、厳しい労働環境のところがあります。卒業生からの相談には、「服務規定が理不尽に改悪された」といったものもありました。会社や経営者に不信を募らせたことでしょうか。何のために働くのか。社会人にとって自明のことのよう思えても、自分の置かれた環境によっては、それを見失ってしまいます。学生の皆さんには、困った時には身近な友人をはじめ専門の相談機関にSOSを発信し、自らのキャリアを守れるようになって欲しいと思います。



略歴 70年慶応義塾大学経済学部卒。70~06年伊藤忠商事(株)勤務、06~11年帝京大学と法政大学職員。11年~法政大学教員

「論拠」を意識する

特任教員 有田 五郎 (ありた ごろう)

キャリアカウンセリング関係のある研修に参加してきた。そこでのポイントが学生への就業力支援に直接役立つと感じたのでご紹介させていただく。人が話をすると、その中で「事実」「意見」「論拠」が混ぜこぜに語られる。それに対して「論拠」を確認すると、発言の意図や妥当性を発言者が自己判断する材料と出来る。

学生のプレゼンや論文に対して、その「論拠」を確認する。いままでも行ってきたことではあるが、その意味を論理的に再認識する機会となった。「自分で考え・行動する」学生達に求めている姿勢だが、その出来を学生自らが意識して欲しい。学生達の成長へ今回の学びを活用していきたい。



略歴:日米ハイテク企業での営業・人事を経て人事コンサルタントとして独立。キャリアカウンセラー資格取得後は多くの大学でキャリア論の講師を務める。

アカデミック・スキルで世界を見る

特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)

どうも日本の国際関係には波風がたっております。メディアにはいろいろな情報が飛び交っておりますが、こんな時こそ学生には指導したアカデミック・スキルをしっかり活かして欲しいと思います。マスコミ報道を鵜呑みにせず事実(一次情報)を見極めること、事実も一つだけで判断せずに複数情報を見ること、そして多面的に判断することです。就業力は仕事だけのものではありません。

外交は政治・経済・文化・軍事とそれぞれの面で状況も見方も対処も異なります。政府レベルがやりあっても、経済や文化が良い関係であるという状態はよくありますね。学生にはそうした冷静かつ論理的な視点で世界を見て欲しいものです。

◆ 「就業力養成ゼミ」スタートしました

昨年に引き続き、有田講師の「就業力養成ゼミ」が今年も後期から始まりました。定員を上回る申込みがあり、うれしい悲鳴をあげています。就業力を養うための多種多様な課題にグループワーク形式で取り組みます。開始時と終了時にアセスメントテストを行い、どれくらい成長できたかを確認します。今年も多摩キャンパスでも開講しています。

◆ 「就業力育成セミナー」は 1day プログラムになりました

こちらも去年に引き続き、もうすぐ新入社員となる4年生を対象に、就労講座「就業力育成セミナー」を11月に開講します。社会保険労務士である講師が、働く前にぜひ知っておきたいマナーやルール・法律を教えます。たくさんの学生が参加できるよう、今年から1dayプログラムとなりました。

◆ 編集後記：去る9月20日に文部科学省平成24年度「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」に本学を含む18大学の取組み「首都圏に立地する大学における産業界のニーズに対応した教育改善」が採択されました。これは産業界のニーズに対応した人材育成の取組みを行う大学・短期大学が地域ごとにグループを形成して、地元の企業、経済団体、地域の団体や自治体等と産学協働のために連携して取組みを実施していくものです。本グループには美術大や女子大も含まれ、単独の大学ではなしえない様々な取組みを連携して行っていく予定です。どうぞご期待ください。◀ 事務局:平山 ▶

「就業力を育てる3ステップシステム」プロジェクト (事務局:学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL:03-3264-9520 WEB:http://3step.hosei.ac.jp/

就業力を育てる3ステップシステム